

保育実習生に求められる力について

－保育実習評価票から探る－

本 村 弥 寿 子

About the power required by a nursery student

－look from the nursery evaluation table－

Yasuko MOTOMURA

キーワード：保育実習 保育実習評価 実習指導

1 はじめに

保育者を目指す学生にとって保育現場での実習は、保育者養成校で学んだ保育に関わる様々な知識を確認したり技術を実践したりする大切な機会である。保育者養成校教員も、学生自身が保育者として子どもと関わる喜びや大変さを感じ、就職に向けて一層意欲を高め、保育の知識や技能の定着を図る機会とするよう、保育現場とともに学生指導を行っている。

近年、社会的に保育者不足の状況が続いている。その影響により、本学幼児教育学科学生で保育現場（保育所、幼稚園、こども園）への就職を希望する者の8割が、12月時点で就職先が内定している。しかも、そのほとんどが第1希望の園に決まっている。就職試験にことごとく失敗し、ようやく3月に5園目の就職試験で内定をもらったといった光景は、本学では8年前の就職活動以来全く見られることがなくなった。これは、保育者を目指す学生にとっても養成校にとってもありがたいことである。しかし、このように苦勞することなく就職内定を得られることで、学生の就職に対しての感覚が軽くなっているとも考えられる。また、保育現場でも、就職試験の結果が好ましいものではなくとも、とにかく保育者を確保したいという思いでいる場合もある。このような就職状況を鑑みると、本学は学生に対し、就職先で自信を持っ

て保育に携われるよう、保育者としての資質を一層育むことが必要と考える。そこで、どのような力を育むべきかを明確にするため、保育実習の評価を洗い出し、現場保育者が本学学生に求めているものを探ることにした。

2 方 法

保育士資格を取得するために必要な保育実習は、施設実習10日間と保育所実習10日間を合わせた「保育実習Ⅰ」と、施設または保育所での実習10日間の「保育実習Ⅱ」が必修科目としてある。さらに学生の希望に応じて、施設または保育所での実習を10日間行う「保育実習Ⅲ」が選択科目としてある。本学学生の7割が、毎年保育園に就職しており、「保育実習Ⅱ」は全ての学生が保育所で実習している状況から、保育所実習、つまり「保育実習Ⅰ」の保育所での実習と「保育実習Ⅱ」の評価票を洗い出すことにした。今回は、平成30年度100名、令和1年度111名、令和2年度98名の、3年分309名の評価票である。

本学の「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」は、8月から9月にかけて実施している。「保育実習Ⅰ」と「保育実習Ⅱ」の間に3日の間隔をあけるが、学生にとっても園にとっても、連続して20日間保育実習を行っている感覚である。「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」それぞれを評価してもらおうが、「保

育実習Ⅰ」で努力や改善が必要と記載されたものが「保育実習Ⅱ」で改善されていた場合は、本学学生に足りないものとして取り上げないこととした。つまり、学生が実習先で指導を受けても、20日間で現場が求めるレベルまで自分自身を引き上げることができないものは、学外実習に取り組む2年生の中盤までに、指導された内容を自分の中に取り込む基盤ができていなかったものと判断できるからである。よって、主として「保育実習Ⅱ」の評価票に重点を置いて抽出した。

本学の保育実習評価票は、7つの評価項目にそれぞれ5つの評価基準を設けているループリック評価である。加えて5段階の総合評価の欄を設け、最後に所見欄をつけている(図表1)。

今回の洗い出しは、所見欄から行った。所見欄には、評価基準に則った評価では伝えられない、その学生について特に伝えたい部分が記入されるためである。以下に、所見欄の洗い出しの手順を示す。

<所見欄洗い出し手順>

- ① 実習内容において努力や改善が必要な点を抜き出す。
- ② 評価項目に照らし合わせる。
- ③ 本学学生が力を入れて学ぶべき点を探る。

当然であるが、学生により個人差がある。よって全ての学生指導に当てはまるものが出てくるとは限らない。しかし、本学学生の傾向をつかむことで、授業内容や実習指導の改善に活かせるのではないかと考える。

3 結果及び考察

平成30年度から令和2年度までの3年間の保育実習評価票を洗い出した結果は表1のとおりである。

評価項目には、次の内容が含まれている。

- ① 勤務状態
[体調および自己管理・遅刻・欠席]
- ② 指導を受ける態度
[素直さ・積極性]
- ③ 保育者としての態度
[挨拶・笑顔・明朗さ・言葉遣い]

<表1 実習園から努力が必要と指摘された課題の項目と指摘された人数>

	評価項目	人数(名)		
		H30年度 (100名中)	R1年度 (111名中)	R2年度 (98名中)
①	勤務状態	0	0	0
②	指導を受ける態度	32	26	34
③	保育者としての態度	15	14	14
④	責任感	0	2	1
⑤	計画性	0	0	0
⑥	保育技術	9	14	13
⑦	観察力	17	29	14

- ④ 責任感
[報告・連絡・相談・提出物]
- ⑤ 計画性
[指導案・保育準備・教材研究]
- ⑥ 保育技術
[子ども理解・子どもとの接し方]
- ⑦ 観察力
[記録内容・書き方・自己評価と振り返り]

表1より、②指導を受ける態度、③保育者としての態度、⑥保育技術、⑦観察力の4つの評価項目に関する内容で指摘を受けた学生が多いことが分かる。この4つの項目について特に分析を進める必要がある。

(1) 「指導を受ける態度」について

7つの項目の中で1番指摘があった項目である。特に“積極性”が足りないと指摘されたものが、平成30年度は28名、令和1年度は24名、令和2年度は31名いた。

積極性の中身は、ループリック評価の基準に「自分で積極的に仕事を探すなど・・・」「質問や積極性が足りなかった・・・」と示している。そのため、所見欄に積極性が足りないと示されている学生は、実習全体を通して取り組みが受け身で

あたり質問を進んで行っていなかったりしたようである。中には、「自分から“絵本の読み聞かせをさせてほしい”などの申し出がなく、何をしに来たのかわからない」「意欲が全く感じられない」といった記述も見られた。

このような記述から、学外実習に取り組む際は、指導案を書いて行う保育だけでなく、学生それぞれが子どもたちの前でやってみたいことをいくつか明確にして準備しておき、自分から進んで取り組ませてもらうよう申し出ることが必要と思われる。そのためにも、事前に多くの絵本に目を通したりエプロンシアターなどの保育教材を多く準備したりしておくよう促すべきであると考えられる。

(2) 「保育者としての態度」について

「笑顔で保育に取り組むともっと素晴らしいと思います」「学生らしい元気の良さが欲しかったです」という記述もかなり見られた。

実習開始時は緊張や不慣れから笑顔になれず、はつらつと行動することができないものである。しかし、最後まで笑顔や元気の良さが出せなかった学生がいるとは驚きである。学生一人一人性格が異なり、子どもと関わる際の表情や態度には個人差がある。子どもに負けないくらい元気で明るい保育者もいれば物静かな保育者もいる。それぞれがその良さを出して保育にあたっていくことが、保育者の個性を大切にすることから大事であろう。

ただ、学生の中には、理解は出来ていても行動に表わしていない者もいる。自分では笑顔で保育に携わっているつもりでいるが、他者から見ると笑顔が全く足りていないということである。“やっている”“できている”と、自分の思い込みで判断するのではなく、保育者としてはどうなのかと常に問いかけながら自分自身の姿を客観的に捉えようとする姿勢が必要である。

(3) 「保育技術」について

この項目は、如何に子どもと関わり子どもを理解しようとしたかということが評価されるものである。保育は子どもと関わる仕事であるため、まずは子どもと積極的に接することが必要となる。

さらに、子どもの内面を探り適切に援助することが求められる。しかしながら、毎年1割の学生が子どもとの関わりに積極性が足りないと評価されているのである。この姿から、保育者としての資質が無いのではないかと捉えられる可能性がある。

しかし、人との関わりに積極的な人もいればそうではない人もおり、学生の約1割は子どもと自然に関わることができるまでに時間がかかるということである。人の性格をすぐに変えることは難しい。よって、関わりが苦手な学生は率先して子どもと接する努力をするよう促すことが必要である。さらに、学生にとって子ども理解は、子どもと関わる以上に難しいものである。実習という限られた期間内で子どもを理解し、適切に援助を行うためにも、まずは積極的に子どもと関わり、子どもと会話や活動を楽しむ気持ちを持つよう伝えることが重要であると考えられる。

(4) 「観察力」について

「指導を受ける態度」に次いで指摘が多かったものが「観察力」である。この項目は主に、実習日誌の記録内容について評価するものである。学外実習の事前指導として、学生は学内で日誌の書き方を学んでいる。しかし、数回の授業で身に付けることは困難であり、また、実習園や指導担当者によって日誌の書き方に違いがあるため、実際はそれぞれの実習先で学んでいる。毎年、実習開始直後は日誌の書き方について詳細に指導を受ける学生が多い。しかし、毎日記入し指導を受けることで改善がなされ、子どもの様子や学生自身の学びを端的に記録できるようになっていく。

今回、3年分の評価表を洗い出してみると、記録の内容より文章力の低さや誤字脱字の多さといった点での指摘が多くみられた。「何を言いたいのかわからない」「同じことを何度も繰り返して書いている」「提出前に読み返しをしてほしい」と、「観察力」の評価というより、文章を書く際の基本が押さえられていないことの指摘がなされているのである。これは、学生の初等教育からの積み重ねの問題でもあろうが、学外実習、さ

らに保育現場への就職も視野に入れて、作文の基本を習得する機会を授業の中に取り入れる必要がある。

(5) 「勤務状態」「責任感」「計画性」について

「勤務状態」「責任感」「計画性」の項目で評価される内容に関しては、指導を受けた後改善が見られ、評価票所見欄に“指摘”というより“報告”という形で記されているものが多かった。

評価項目「指導を受ける態度」の評価基準に「積極性」に加え「素直さ」もある。この「素直さ」に関しては、本学学生はポイントが高いようである。今回、所見欄に「素直である」と書かれている学生の数までは洗い出さなかったが、ほとんどの所見欄で目にする事ができた。この「素直さ」ゆえに、指導を受けたことが次に活かされているのではないかと思われる。これは、本学学生の強みである。

4 まとめ

過去3年間の保育実習評価票の所見欄を洗い出した。そこから、保育実習前に学生に身に付けさせたい力を探ることができた。これは、保育現場が本学学生に対し、実習前に身に付けてきてほしい、あるいは実習で意識してほしいと求めている力（行為）を以下に示す。

<保育実習生に求める力>

○実習に対する意欲・積極性を持つ

- ・進んで質問をする
- ・できる仕事を見つけ進んで取り組む
- ・進んで子どもの前に立つ機会を作る
- ・教材や絵本を準備しておく

○明るさ・元気の良さを意識する

- ・笑顔を絶やさない
- ・進んで挨拶し返事を忘れない
- ・素早い行動を心がける

○子どもと関わる

- ・笑顔で声をかける
- ・一緒に遊ぶ

- ・気持ちを考える

○丁寧に日誌を書く

- ・書きたいことを絞る
- ・辞書を引く
- ・読み返す

5 おわりに

保育実習評価票の所見欄を洗い出して見えてきたことは、これまでの学生へ行ってきた指導内容をこれからも踏襲していくべきだということである。特別なことではなく、これまで通り実習前に心がけておくべきことを、一層力を入れて伝えていくことが重要である。教員にとっては当たり前のことであるが、学生にとっては“それをすべきだとは知らなかった”かもしれない。また、学生自身は“やっている”つもりであるかもしれない。学生が学外実習に取り組む前に、養成校教員が丁寧に、根気強く指導していくことを続けなければならない。そのために、学外実習の事前オリエンテーションはもちろんであるが、日々の授業や生活の中で機会をとらえて伝えることが必要であろう。さらには、特定の教員だけでなく、幼児教育学科教員全員が一丸となって指導に当たることが重要であると考えます。

学生にとって学外実習は、保育者を目指す学びの集大成である。不安もあればつらさや困難さもある。しかし、それ以上に子どもと関わる面白さや喜びを感じられるのが学外実習である。

より充実した保育実習に取り組めるよう、保育実習に向けての指導内容の見直しに取り組む努力を続けたい。

参考・引用文献

- 1) 「教育・保育実習の手引き」長崎女子短期大学幼児教育学科 (2019. 4)
- 2) 「実習記録ハンドブック」長崎女子短期大学幼児教育学科 (2019. 4)

令和2年度 保育実習Ⅰ 評価票

長崎女子短期大学 幼児教育学科

学籍番号		実習生氏名	
実習保育園(所)		園(所)名	園(所)長名
			実習指導者名
実習期間		令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
出勤した日数	欠席した日数	遅刻した日数	早退した日数
日	日	日	日
評価項目		評価基準 (各項目、当てはまる数字1つに○印をお付け下さい。)	
①	勤務状態 (体調及び自己管理 遅刻・欠席)	5 健康管理は良好で、時間的余裕を持って勤務した 4 健康管理は良好で、遅刻や早退、欠勤はなかった 3 体調に問題はなく、遅刻や欠勤はなかった 2 体調がすぐれず、欠勤や遅刻・早退等があった 1 体調がすぐれず、欠勤や遅刻・早退が目立った	
②	指導を受ける態度 (素直さ・積極性)	5 指導や助言を素直に受け止め、自分で仕事を探すなど、積極的に仕事をした 4 指導や助言を素直に受け止め、質問や相談をしながら仕事をした 3 指導や助言を素直に受け止め、実践した 2 決められた仕事に素直に取り組んだが、質問や積極性が足りなかった 1 指導者の指導や助言を素直に受け止めることができなかった	
③	保育者としての態度 (挨拶・笑顔・明朗さ 言葉遣い)	5 常に笑顔で、進んで挨拶をし、場に応じた態度で取り組んだ 4 笑顔を心掛け、はつらつとした態度で取り組んだ 3 笑顔を意識しながら実習し、挨拶を欠かさない姿勢がみられた 2 挨拶していることは確認できたが、笑顔が少なく、声が小さかった 1 笑顔がみられず、挨拶の声も小さく、指導しても改善がみられなかった	
④	責任感 (報告・連絡・相談 提出物)	5 報告・連絡・相談を確実にし、提出物は早めに出され、整理された内容であった 4 報告・連絡・相談を心がけて、提出物などの期限を守り、整理された内容であった 3 報告・連絡・相談を心がけて仕事をした。提出物の期限を守ることができていた 2 報告・連絡・相談が十分でなく、提出物の期限を守れないことがあった 1 報告・連絡・相談ができず、不適切な自己判断で、対応に間違いがみられた	
⑤	計画性 (指導案・保育準備 教材研究)	5 保育のねらいと指導計画を適切に作成し、教材研究や保育準備をしっかりと行った 4 指導を受けながら保育のねらいに沿った指導計画をたて、保育準備を行った 3 指導を受けながら保育のねらいに沿った指導計画・保育準備を心がけた 2 指導を受けながら指導計画をたてたが、保育準備が不十分だった 1 指導計画に改善がみられず、保育準備も不十分だった	
⑥	保育技術 (子ども理解 子どもとの接し方)	5 子どもと積極的に関わり、子どもの思いを汲みとりながら援助した 4 子どもと積極的に関わることもできた 3 子どもと積極的に関わることを心がけた 2 一部の子どもとしか関わらず、子ども理解が十分とはいえなかった 1 子どもとの関わりが消極的で、子どもを理解しようとする姿勢がみられなかった	
⑦	観察力 (記録内容・書き方 自己評価と振り返り)	5 その日の活動を振り返った深まりのある内容を記録し、その後の活動に活かすことができた 4 その日の活動を振り返り、学んだことを適切に記録することができた 3 その日の活動を振り返り、学んだことを記録することを心がけた 2 その日の活動の振り返りはできるようになったが、記録の内容に不十分さが残った 1 その日の活動の振り返りが不足し、反省点や改善点を自分から見つけることができなかった	
実習生としての総合評価		5 非常によい	4 よい
		3 普通	2 劣る
		1 非常に劣る	
所見			

図表 1 保育実習評価票